

出張医学教育FD(佐久総合病院)

【日 時】平成29年 7月18日(火)

【参加人数】42名

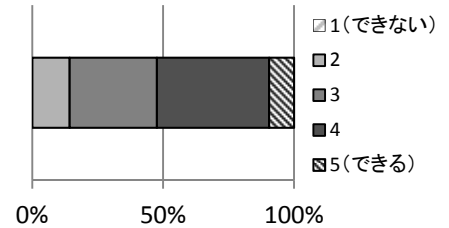
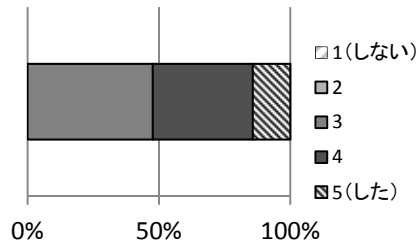
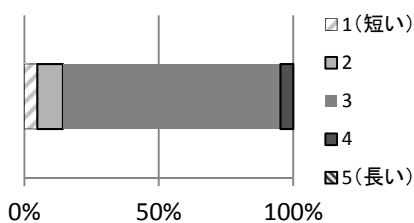
【内 容】アセスメント(評価)の仕方



FDの開催時間はいかがでしたか。

FDはニーズにマッチしましたか。

学生の評価ができるようになりますか。



参加者の意見

よく理解できたこと	あまり理解できなかったこと	ご意見
学生をいかに評価するか、どのように学生を勉強させるかという点がよく理解できた。	「症例報告は求めている」 →担当患者のレポートを出す場合に、疾患をテーマにすると、コピー&ペーストをしてくることがある。担当症例の中でも、ポイントを絞って症例に合った鑑別診断、治療法などを担当症例に沿って考察するよう指導している。「症例報告を求めている」とされると指導例がその真意について混乱が生じる	体験、デブリーフィングは大事ですね
ブリーフィングとデブリーフィングが重要 学生にさせるとよい事が何かがあった。		職員全員に話してほしい。看護教育にも役立てて欲しい。
学習レポートと行動レポートのちがひ	診療の中で具体的な時間計画をどのように立てればよいかわからない(思い付いた時にだけ、指導している)。例えば「外来後に30分時間をとってデブリーフィング」「朝のカンファの前に20分ブリーフィング」をするなど、どのくらいの時間を費やすなどと決まっていると良いと思った。	
・ブリーフィング、デブリーフィングの重要性 ・臨床推論の大切さ		
学生にさせること。	我々がどうブリーフィングなどをすべきか	
学生にさせて欲しいこと	多田先生が3回登場するところ 2回しかわからなかった	
ポイントを伝えないと見学の要領を得ない		
昔とは教育のシステムが異なる事。		
どんな事を学生にさせたらよいか どのように評価したらいいのか？		
評価の仕方が理解できました。		
学生が要求している事		
まずブリーフィングすること		
ブリーフィングとデブリーフィングの必要性 学生にやらせる事		
学生との接し方		